

Photo Report



ラボカフェでの一コマ



▲「青の錬金術師」と称して青色半導体レーザーによる銅のコーティング・積層技術の研究内容や可能性を披露した塚本教授



▲進行を務めたカフェマスターの田中副所長の軽妙なトークもラボカフェの魅力の一つ



▲レーザーによる積層技術サンプル



▲新幹線のプレーバットに適用されたコーティング技術(模型)

大阪大学接合研「ラボカフェ」で接合科学の魅力を発信 研究者の視点を社会に開き,大阪大学の知をPR

写真は、3月6日に京阪電車「なにわ橋駅」の地下1階コンコース内にある「アートエリアB1(ビーワン)」でオープンした「ラボカフェ」での一コマ。

ラボカフェとは、カフェという環境空間をラボラトリー(実験室)的に使い、大阪大学が社会の様々な組織などとコラボレーションしながら、主題に応じた研究・開発を繰り広げるプロデュース事業。ゆったりと寛いだ雰囲気の中、「今、大学がどういう研究や学問に取り組んでいるのか」、「研究成果はどのように活用されるのか」などについて、わかりやすい言葉やプレゼンテーションで一般市民に理解してもらおうことが狙い。テーマも哲学やアート、サイエンス、減災、医療など多岐に亘り、その内容も対話やレクチャー、アートイベントなど様々なプログラムが用意されている。

2008年10月に大阪大学と京阪電鉄、地域NPO法人が立ち上げたこのコミュニケーションスペースでラボカフェは毎月開催されている。席の配置や講師との距離感なども考慮したフランクなレイアウトで、しかもプログラムのほとんどが聴講無料、退場も自由なため、たまたま通

りかかった人でも気軽に立ち寄ることができる。

大阪大学接合科学研究所(JWRI)もこのラボカフェに参画し、「接合科学の大切さや面白さ、奥深さ」などを積極的に紹介している。昨年11月には「接合って何? -JとWとRとI-」(田中学接合科学研究所副所長)、今年1月の「こんなところにも? -身近な部品と接合-」(西川宏同准教授)に続き、3月6日には同研究所レーザープロセス分野の塚本雅裕教授が「錬金術師? -金属コーティングの極意-」をテーマに接合科学の魅力を語った。

サイエンス分野は聴講者にとっては難解となりがちだが、ラボカフェでは塚本教授の軽快な話術に加え、進行役を務めたカフェマスターの田中副所長が絶妙な合いの手や解説を交えることで、親しみやすい雰囲気を演出。

田中副所長は「ラボカフェを通して先生方がアウトリーチする難しさを知るとともに、どういうプレゼンをすれば、一般市民の方にも興味を持っていただけるのか、を学ぶことができる。今後も3カ月に1度くらいのペースで接合科学の魅力を発信していきたい」としている。